

会員ならびに会員保護者各位

JSSスイミングスクールをご利用の皆様へ

2022年度も安心してJSSスイミングスクールをご利用いただくため
プール施設の水質管理と安全対策についてご説明いたします。

① プールには厳しい衛生基準がある

プールの衛生基準は厚生労働省、文部科学省、国土交通省、都道府県や市町村
による厳格なルールがあります。

特に水質については下記のように定められ、JSSスイミングスクール各施設
ではそれぞれ「プール衛生管理者」または「衛生推進者」が在籍し、適正に管理
されています。

(A)遊離残留塩素濃度…0.4 mg/L ~1.0 mg/L

(B)水素イオン濃度…(pH値) 5.8以上8.6以下であること。

(C)大腸菌…検出されないこと

(D)一般細菌…200 CFU/mL以下であること

(E)過マンガンカリウム消費量…12mg/L以下

(F)濁度…2度以下であること

(G)トリハロメタン…0.2 mg/L以下が望ましい

※(A)(B)は営業中毎時間計測、その他の項目は専門の検査機関により毎月採水
検査し、その結果を館内に掲示しています。



数多いスポーツ施設の中でもプールは最も衛生管理が徹底されている環境で
あると言えます。

② 塩素による殺菌作用が効果的である

塩素濃度が正しく管理されたプールでは大腸菌などの細菌は瞬時に死滅し、
アデノウィルスやインフルエンザウィルスも不活性化します。

また、日本スイミングクラブ協会からは新型コロナウイルスについても同様の
効果があると提言されています。

<https://www.sc-net.or.jp/info/news/1842/>

2020年5月にスポーツ庁は感染症の専門家の見解を踏まえ、学校の水泳授業の取り扱いについて「プール水の遊離残留塩素濃度が適切に管理されている場合においては、水中感染のリスクは低いと指摘されている」と発表し、適正な塩素濃度管理による有効性を示しました。

塩素消毒されたプールで、プール水を介して上記のウィルスに感染する可能性はきわめて低いと言えます。

※プールで使用するビート板やヘルパーなどの用具も絶えず塩素消毒していますので安心です。

③ 湿度の高い室内プール内はウィルスの増殖を抑制する

室内プールの湿度の高さもウィルス抑制に効果があるとされています。

多くのウィルスは湿度が高い状態では増殖力や感染力を失います。

また、空気が乾燥している状態ではウィルスがほこりと一緒に浮遊してしまいますが、湿度が高く水分量が多い状態ではウィルスの浮遊および活性力も抑制できます。

日本スイミングクラブ協会は塩素消毒の有効性と併せて「適度な湿度（50～70%）を保つことでプール施設内は感染防止に優れ、感染リスクが低い」ものとしています。

上記と合わせてJSSスイミングスクールでは来館時の体温チェック、手指の消毒はもちろんの事、ギャラリー、更衣室、トイレ、乾燥室、プールサイド、シャワー室等の館内と送迎スクールバスの除菌作業の徹底、湿度管理と換気を効率よく行っています。

また、密になりやすい更衣室は時間差での利用、着替え時のマスクの着用の呼びかけ等を行い、安全な環境を提供できるように、スタッフ一同お客様やスタッフの感染リスク回避に努めてまいります。

定期的な運動習慣で免疫力を高め、健康的な生活をお送りいただけるよう快適なプールコンディションで皆様をお待ちしております。



※観覧席をはじめ施設の詳しいご利用規制などについてはご利用の施設にお問合せ下さい。